森の学校だより

ろうきん
森の学校

ろうきん森の学校　2016年度 活動報告

interview / Niigata

若者が暮らし続けることができるように地域の自然資源を活かす

12年目に突入！

12/20

2005-2024　労働金庫連合会 × NPOの20年にわたる環境教育

福島地区

湯ノ岳フィールド機能の充実強化を

いわきの森に親しむ会
木田 理事長

栗園跡地を含む湯ノ岳フィールドの整備のための実施計画にもとづく再整備に着手しました。どのような機能を織り込んでいくか、いろいろと検討中です。

自然体験活動

森の学校体験の中に、布ぞうりつくりとコウゾの和紙つくりのメニューが新たに加わりました。

自然案内人養成講座

いわき自然案内人養成基礎講座（全３日間）が新たにスタート。2017 年度以降も継続します。

ろうきん × FUKUSHIMA

東北ろうきん 新入職員研修

東北労働金庫の新入職員への自然体験活動を湯ノ岳山荘で実施。参加者の皆さんには、記念にクヌギの苗木を植樹してもらいました。

Columun

国際ワークキャンプ 受入開始

２０１６年度から、国際ワークキャンプの受入れを開始。９月、11月、３月の計３回実施しました。参加者はのべ１４４名、他に地元の若者８名も加わりました。

参加者のほとんどは森の作業が初めてであったため、まずは、道具の使い方や手入れの仕方、森の中での過ごし方など、森での作業のイロハを学びました。

栗園跡地を含む湯ノ岳フィールドにおいて、会員が行う活動の中で、動力機械を使うもの以外の作業をひととおり体験できました。9月に参加した台湾の国立大学のメンバーからは「来年もぜひ来たい」との声が聞かれました。

外国人ボランティアによる草刈の風景

国際ワークキャンプ　世界の若者が共に生活しながら住民達と森や田畑の手入れ等の活動に取組む合宿型ボランティアで、全国各地で行われている。

＼ 福島地区の ／ オススメ体験

森の学校体験

毎月第 3 日曜日の 9 時～ 13 時に実施。野外料理体験もメニューのひとつです。

育樹祭

2017 年度は 12 月 3 日（日）9 時～ 13 時に自然観察会、下草刈り、植樹等を行います。

定例会

毎月水曜日と第 1、第 3 土曜日には、いろいろな森の手入れ作業を季節に応じて実施します。

富士山地区

ろうきん森の学校を地域の財産に

ホールアース研究所
山崎 代表理事

富士山地区の活動は、その地区名称のとおり、富士山の恵みを感じながら体験できるメニューが揃っています。雄大な景観はもちろん、森林、湧水、食など、その魅力を満喫すべく足を運んでみてください。

おいしい里山物語

地域の天然酵母パン屋さんを講師に招き、卵や乳製品を使わない里山ピザを生地からつくりました！

木育研修

内部スタッフ向けの新たな試みである「木育研修」では、気軽に木に触れてもらうクラフト型森林教育プログラムの習得ができました。

ろうきん × FUJISAN

労働金庫連合会 新人研修

労働金庫連合会の新人研修を実施しました。竹林の間伐に加え、竹クラフトづくりも行いました。

Columun

活動成果の「見える化」を推進

富士山地区では、「里山つなぎ隊」などの定番プログラムが増えてきました。今後は、各プログラムの活動成果を"見える化"していきたいと考えています。その一環として、2016年度末、5年間続いた「フジモックフェス」の過去の参加者に対し、アンケートとヒアリングを実施しました。調査手法に改善の余地はあるものの、プログラム参加後、それぞれの暮らしや考え方にどのような変化が生じたのか、垣間見ることができました。自然と人の関わりのあり方を問い直し、両者の関わりの持続性向上を目指す活動は全国で展開されています。それらの活動成果を"見える化"する（＝社会が認識する）ことは、新たな参加・支援を獲得する大切な一歩だと思います。

ヒノキから作られた様々な作品

フジモックフェス　富士山（FUJI）の間伐材で、アイデアをかたちに（MOCK-UP）するフェスティバル。最新機器を使い、様々な試作品が作られた。

＼富士山地区の／

オススメ体験

里山つなぎ隊

里山を再生するボランティア活動。人と人、人と地域をつなぎ、楽しく汗を流します。

アドベンチャーキッズ

親子でわくわくアウトドア！富士山麓の豊かな自然を舞台に、思いっきり楽しみます。

田貫湖秋まつり

竹クラフトや木のアクセサリーづくりなど、気持ちのいい秋の田貫湖畔で自然に触れるお祭りです。2017 年は、10 月 29 日（日）に開催予定です。

GIFU

岐阜地区

森の恵みを活かす ものづくり講座を提供

ゴッホの椅子づくり

ゴッホが絵に描いた椅子を手づくりで再現する「ゴッホの椅子づくり」を行いました。ヒノキを伐採し生木のまま削りました。

竹テントマスター養成講座

千葉のNPOを講師に招いて「竹テントマスター養成講座」を開催しました。今後は竹テントワークショップの自主開催を目指します。

NPO法人
グリーンウッドワーク協会
小野 理事長

ろうきんの森をフィールドとして活用することで、森とグリーンウッドワークの繋がりがより明確に見えるようになった1年でした。今後もグリーンウッドワークの活動を通して森に関心を持つ人が増えることを願います。

ろうきん × GIFU

東海ろうきん職員による フィールド整備

東海労働金庫の若手職員の皆さんが森の木を使って森の看板や階段をつくり、自分たちの手でろうきんの森を整備しました。

＼ 岐阜地区の ／ オススメ体験

森に工房をつくろう

パーマカルチャー（持続可能な暮らしづくり）の先生を呼んで、日干し煉瓦でかまどをつくります。

森工塾：キノコの森づくり

マイタケの原木栽培と収穫、キノコの観察会を行います。

森工塾：銑の皮カバーづくり

グリーンウッドワークで使う銑（セン）という道具の使い方を学び、革のカバーをつくります。

Columun

グリーンウッドワークで広がる木育

2016年度は、子どもを真ん中に置いたまちづくりを目指し、美濃市内全7園45名の保育士さんを対象にした研修会の開催や、小学生の放課後の居場所づくりを目的とした「放課後ランド」に取り組みました。大人がめいっぱい楽しむことで、子ども達にものづくりの楽しさが伝わります。ろうきんの森を使った活動を通して美濃市内の木育の輪が広がっています。

2017年度は、森の中でのグリーンウッドワーク活動にさらに力を入れるために、「ろうきん森の工房」の建設をワークショップ形式で開催。たくさんの方の力をお借りしてつくり上げていきます。建築材料は県産材のスギやヒノキを使用します。この工房をきっかけに、もっとたくさんの方が訪れるようになることを目指します。

保育士によるグリーンウッドワーク体験の様子

グリーンウッドワーク 伝統的な手工具を使い、生木を割ったり削ったりしながら小物や家具をつくるものづくり。

広島地区

次代を担う人づくりに全力で取り組む

ひろしま自然学校
志賀 代表理事

里山シニア大学や企業の森づくりなど、今後森の学校を展開する上で重要な柱となる事業の企画概要が完成しました。欠員となっていた職員1名も2017年度からの採用者が決定し、次代の森の学校の運営体制が充実してきました。

小麦プロジェクト

国産小麦「せときらら」の栽培、収穫、加工を体験する小麦プロジェクトを開催。おいしい石窯パンも食べることができました。

プレイリーダー養成ユースキャンプ

大学生のボランティアグループ「なちゅらるず」の新メンバーを養成する「プレイリーダー養成ユースキャンプ」を2泊3日で開催しました。

ろうきん × HIROSHIMA

ろうきん関係者との協働開催

中国労働金庫、広島県労働福祉協議会と共催で「森の学校フェスティバル＆森の音楽祭」を開催。家族連れなど約300人が森の学校での体験プログラムを満喫しました。

Columun

長期プログラムで住民との交流も

夏休みだからできる長期自然体験プログラム「夏の分校1／2ヶ月」を2016年8月10日～23日の13泊14日で開催しました。70名ほどの応募者の中から抽選で24名を選出。ろうきん森の学校のフィールドのひとつである旧酒森小学校の廃校を拠点に共同生活を行いながら、地元の文化・自然について学びました。夏の分校の一番の特徴は「分校会」という自治会を結成し、キャンプ運営に直接参画するしくみがあることです。キャンプ最後の夜に開催した「復活夏祭り！」のイベントでは、過疎高齢化により途絶えた夏祭りを分校会企画で復活させ、お世話になった地元住民との交流を楽しみました。参加した子どもたちにとって、一生の宝ものになるような毎日がキラキラと輝く素敵なキャンプでした。

沢登りに挑戦している様子

＼ 広島地区の ／

オススメ体験

里山シニア大学

「シニアの力で里山を元気に！」がテーマ。里山を「学ぶ・遊ぶ・保全する」10回講座です。

アースキーパープログラム

アースキーパーのプログラムが復活。ボランティア養成や建物建設を行います。

森の学校フェスティバル

森の音楽祭を開演。カヌーやツリークライミングなど森の中でゆっくり楽しめます。

若者が暮らし続けることができるように地域の自然資源を活かす

田舎って自然が一杯！すご～く良い所！来られる皆さんが最初に揃って言う言葉です。でも、それと共に色々な未来への可能性が限りなくあるのが、今の田舎の環境です。是非みんなで田舎を守り、育てましょう。

野外教育学修センター魚沼伝習館
理事長　坂本 恭一

新潟地区

2015年から新たに加わった新潟地区。森と田畑に囲まれ、日本の原風景が今も残る辻又集落に拠点を置く、NPO法人野外教育学修センター魚沼伝習館の坂本理事長に、お話を伺いました。

自然体験活動を通じた情操教育と地域活性化を

魚沼伝習館は、「青少年育成事業」、「地域づくり・環境事業」を2本柱に、自然体験活動を通じて子どもたちの情操教育と地域活性化を目指しているNPO法人です。

職員は3名と少ないですが、地域おこし協力隊や志のある若者が日常的に関わり、地元の方の協力も得ながら活動を展開しています。

基本的な人格形成のための教育を考える

年間を通じて「まめっこクラブ」という体験イベントを行っています。「まめ」は、魚沼の方言で「元気」という意味。生まれ育った地域のことが大好きで、元気な子どもが育って欲しいという願いが込められています。あくまでターゲットは地元の子どもたち。魚沼市、南魚沼市で行った放課後子どもプランでは、年間約6000人の参加がありました。

子どもたちの教育を考えた時、学校教育、家庭教育、社会教育の3つの柱があると思います。しかしながら、学級崩壊や夫婦共働き家庭の増加など、子どもを取り巻く環境が刻々と変わっていて、子どもが主人公なのに、大人の意向で子どもたちの教育が阻害されていると感じています。学力評価の社会のためではなく、基本的な人格形成のための教育を考えるため、地元の学校長を交えての意見交換会も進めています。

耕作放棄地や山林の資源を活用し地域経済の再生を目指す

東京から辻又地域へ移住して、19年が経ちました。山や川で遊びながらのんびり過ごそうと思っていましたが、縁があって南魚沼市の教育委員会とつながりました。今の子どもたちは外で遊ぶ機会が少なくなりました。「子どもにもっと外遊びをさせたい！」という教育委員会の強い想いに動かされ、自分が請け負うことにしました。

一方で、子どもたちをただ自然の中で遊ばせているだけでは駄目。高校を卒業して、進学や就職を考えた時に外へ出て行ってしまいます。地元に戻りたくても、仕事がないから戻って来られません。そして、集落に残っているのは、ジジ・ババだけ。この辺りは農業地帯なので、結果として耕作放棄地が増え、山林の荒廃も進んでいきます。この集落は15世帯約40人、うち子どもは4人だけ。それも1世帯に4人です。

NIIGATA

新潟地区のメインフィールド

南魚沼市 辻又集落

800 年以上続いている集落で、最盛期は 50 軒 180 人ぐらいの住民が暮らした場所ですが、現在は 15 軒、40 人足らず。
しかし集落面積は 640ha と広大で、600ha 以上が山林です。正に自然資源満載のフィールドで、持続可能な集落の構築を目指し、農業や林業の再生を行いながら後継者の育成も含め活動しています。

新潟県南魚沼市は こんなとこ！

「ろうきん森の学校」新潟地区の位置する南魚沼市は、首都圏から 200km 足らずの距離にあります。
尾瀬国立公園の新潟県側入口、越後三山只見国定公園（越後駒ケ岳、中の岳、八海山）、そして日本一の米「魚沼産コシヒカリ」を育てる魚野川などの豊かな自然、食文化、歴史といった地域資源溢れる地域です。

そんな限界集落と呼ばれる地域で、耕作放棄地や山林の資源を活用し、地域経済の再生を目指してＮＰＯを設立しました。２００５年のことです。

荒れている山や畑こそ田舎の大きな経済資本

ガスや電気、輸入木材の普及によって、かつて資源の宝庫だった山は価値がないものと思われ、結果として人が入らないようになりました。でも、それは大きな間違い！私から見たら、スギの植林地は宝の山で、重要なのはお金に変える仕組みを考えること。荒れている山や畑こそ、田舎の大きな経済資本と捉えました。

魚沼伝習館では、耕作放棄地を再生して、お米や野菜づくりをしています。また、森の手入れを進め、伐った木を自分たちで製材し、テーブルなどの木工品を作っています。しかし、売るところがないとお金にはなりません。今は生産物・木工品の出口をつくるため、販路の拡大に力を入れています。

地域に収入源＝仕事先をつくることで、若者の生活基盤をつくる。その助走期間にろうきん森の学校の後押しを得て、地域活性化の仕組みをつくりたいです。

今の若い人たちへ

自然体験活動を続けていても、地域が元気になるわけではありません。事実、子どもの数は急激に減っているし、こういった地域は日本のそこらじゅうにあります。私は、こんな不便な地域でも十分に生活ができると、今の若い人たちに伝えたいです。

森林整備

開校と同時に、村の共有林約 9ha の整備を開始しました。最初に手を入れた雑木林では畑の跡が出現し、それと共に山菜が一面に繁殖していることが判明。ひとつの経済資源として大切に維持しています。

学校との連携

学校の体験学習授業の一環として、大切な地域資源のひとつである森林資源を認識、理解、保全し利活用するプログラムを実施。第 1 回目は、森を知る活動を行いました。

新潟県労働金庫との連携

開校以来、強力な助っ人として新潟県労働金庫の皆さんの協力をいただきながら、荒廃した森の間伐作業、道の整備など将来の自然体験、環境学習の場などに利活用できるよう活動しています。

ABOUT ろうきん森の学校とは

森を育てるような長期的視点で人材を育成することを目的とした環境教育事業

豊かな里山の再生

荒廃した里山の整備を通じて、生物多様性を取り戻し、地域の自然を再生。

人材の育成

安全で楽しいプログラムを提供するため、環境教育的視点を持った人材を育成。

自然体験プログラムの実施

里山を活かした自然体験プログラムを通じて、健康維持と精神的な安らぎを提供。

ろうきん関係者への研修実施

ろうきん関係者の参加を通じて、環境意識の醸成とコミュニケーションの促進を図る。

ろうきん森の学校は、2005 年から 2024 年まで 20 年間にわたって取り組む、労働金庫連合会と全国5つの NPO による環境教育事業です。2016 年度はのべ 18,278 人が参加し、累計参加者数は 15 万人を超えました。2016 年度は新潟・岐阜地区での活動も本格化し、ろうきん関係者と共に活動が活発になりました。

富士宮地区労働者福祉協議会事務局長
（ニッピ労働組合中央執行委員長）
飯室憲一 氏

ろうきん森の学校 参加者の声

地域の森を地域の企業で守る

富士宮地区労福協の森づくり活動は2013年から始まりました。私は労福協幹事として、第1回目から活動に参加しています。

もともとアウトドア活動が好きだったため、森の中での作業も楽しむことができています。間伐をして、光が入り込んだ森はいいですよね。私自身にとっては、間伐作業をしている時は、伐られる木の生命をいただき、他の生命を育むという、何かとても大切なことを考えさせられる時間でもあります。

また、労福協としては、地域の森を地域の企業で守るという仕組みの中、限られた人員・回数ではありますが、互いの交流を図りながら、和気あいあいとした一日を過ごすことができる、貴重な機会となっています。

FIELD 現地事務局情報

本誌で掲載している体験の詳細は、下記の各拠点へお問い合わせください。

福島地区

NPO法人 いわきの森に親しむ会
〒972-8326 福島県いわき市常磐藤原町湯ノ岳2湯ノ岳山荘内
Tel. 0246-44-3273 / **Fax.** 0246-44-3273
Mail yunodake@gray.plala.or.jp
Web iwaki-mori.jimdo.com/

新潟地区

NPO法人 野外教育学修センター魚沼伝習館
〒949-7319 新潟県南魚沼市市野江丙661
Tel. 025-793-7320 / **Fax.** 025-793-7321
Mail info@uonuma-denshukan.com
Web www.uonuma-denshukan.com/

富士山地区

NPO 法人 ホールアース研究所
〒419-0305 静岡県富士宮市下柚野165
Tel. 0544-66-0790 / **Fax.** 0544-67-0567
Mail forest@wens.gr.jp
Web wens.gr.jp/

岐阜地区

NPO法人 グリーンウッドワーク協会
〒501-3701 岐阜県美濃市2973番地1
Tel. 090-4793-9508
Mail greenwoodworker@gmail.com
Web www.greenwoodwork.jp/

広島地区

NPO法人 ひろしま自然学校
〒733-0012 広島市西区中広町2丁目24-5-302
Tel. 082-208-4146 / **Fax.** 050-1029-6367
Mail nkk5408@gmail.com
Web moricafe.sakura.ne.jp/

この事業は「国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J)」が推奨する事業として認定を受けています。

INFORMATION

「ろうきん森の学校」に関するお問い合わせは全国事務局（ホールアース研究所）まで

forest@wens.gr.jp

ろうきん森の学校 検索
www.mori-gakko.net

ろうきん 森の学校

「ろうきん」の活動に関するお問い合わせはこちら

労働金庫連合会 総合企画部
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5-15
Tel. 03-3295-9332 / **Fax.** 03-3295-9328
Mail rokinren_mori@ho.rokinbank.or.jp
Web www.rokinren.com/csr/